

■編集・発行／神奈川骨髓移植を考える会（略称：BMT 神奈川）

〒254-0042 神奈川県平塚市明石町 24-25-309 黒部設計事務所内 発行責任者／村上忠雄

TEL:090-4713-7300 FAX :0463-25-1383 <https://www.bmtkanagawa.com/> E-mail:bmtnoniji@yahoo.co.jp

■日本骨髓バンク <http://www.jmdp.or.jp> ■全国骨髓バンク推進連絡協議会 <http://www.marrow.or.jp>

BMT 神奈川設立30周年の記念誌が完成しました

当会は“生きていたい”という患者さんや家族の切実な願いで設立されましたが、立ち上げた頃のメンバーがこの冊子を見たら喜んでくれることでしょう。なぜなら今では、闘病後に参加する方が主要なメンバーであり、この記念誌の担当者も患者を経験したお2人なのですから。

2年ほど前の定例会で30周年記念行事を募集したところ「運動会」という思いがけないアイディアが出て、2020年6月6日に一泊で開催する予定にしておりましたが、残念ながらコロナ禍で中止となり、記念誌のみ発行することになりました。神奈川骨髓移植を考える会は、“楽しく笑顔で活動しようという考え”を、継承していきます。

□ BMT 神奈川の30年

1991年伊勢原で行われた骨髓バンク公開シンポジウムに観客として参加したのがこの会と私との出会いでした。体調が良くないと言われていた大谷さんの経験を元にした講演は、闇の中の希望の光でした。誘われた例会は東曜印房（前事務所）2階の書道教室、宮戸さんはバイタリティーに溢れ、全国のボランティアの先頭を走っていました。骨髓移植推進財団が発足した後もシンポジウムを開催し、来場された患者さん、家族、友人等の観客の中から会員となってくれる人が徐々に増えてこの会が発展してきました。

1992年、小澤さん、三戸さんが骨髓バンク支援チャリティーコンサートを提案してくださり、東京、千葉、神奈川（鎌倉・円覚寺）の3ヶ所で開催されました。翌年は伊勢原でしたが、1994年以降は桜咲く4月の円覚寺でのコンサートが恒例となり、会員の一番の楽しみな行事となりました。また2月の月例会は、齋藤和尚のご厚意により寿徳庵でおこなうことも恒例となりました。

1993年9月に全国協議会設立3周年記念事業を横浜で開催しました。神奈川県に共催のお願いに伺い、その対応担当者が現在の村上会長です。

2003年、全国協議会全国大会を再び横浜で開催、会場は横浜市開港記念会館で式典、上野創さんの講演、血液疾患医療講演、個別医療相談会、患者さんと家族の滞在

施設パネル展、横浜そごうでのドナー登録会、そして安西水丸審査委員長の下でのポスターコンクール、中華街での懇親会と盛りだくさんの内容で、会の総力を結集した大会でした。

2013・2014年両年の神奈川県緊急雇用創出基金委託事業は合計2,718名のドナー登録に結びつきました。

この事業で、やればできる、自信と新たな自力が会員各自に身についたように思います。

その後、神奈川県とドナー登録説明員養成講座を開き、2018年から2020年まで、かながわボランティア活動推進基金21の「骨髓ドナー登録推進事業」を継続した結果、委託事業でスキルアップした会員と、様々な特技を持つ養成講座を受けて入会した会員が出会えたことで想像以上の相乗効果が出ています。コロナ禍でも例会をZoomで行い、各自の特技を活かせるような発想、提案が出され実行されて、ホームページには動画が加わり、登録会のコロナ対策、患者サロン、新規事業へのチャレンジと当会はますます元気です。

30年の間に多くの人と出会いました、一緒に汗を流した人、悲しいお別れをした人、楽しいお酒を飲んだ人、そして様々なことを体験し、多くを学びました。この30年に感謝です。（黒部）

＊ ＊ 30 周年記念誌から一部を掲載します ＊ ＊



～かながわボランティア活動推進基金21のご報告～3年間の主な成果です

2018年4月より神奈川県から助成を受けた事業が終了しました。外部からの考えを受け入れることで、会員同士に新しい絆が生まれました。この事業のプレゼンテーションの時に審査員から「この事業で（ドナーを増やす）打ち上げ花火を上げて欲しい」とのアドバイス。結果を花火に例えるなら「たくさんの仕掛け花火を仕掛けけることができました」ということでしょうか。今後、いろいろな場所や方法で仕掛け花火をお見せします。

★骨髄ドナー登録会



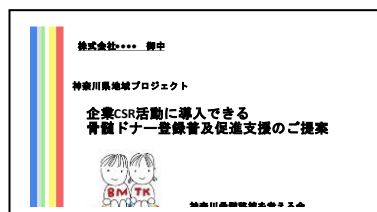
3年間で約700人ほどの説明員で、神奈川県の各地で骨髄ドナー登録会を開催しました。献血ルームでは、患者経験者を優先して配置し、謝金を得ることで社会参加や自信に繋げることができました。コロナ禍で一時中止をしていましたが、対策をして活動を再開しました。今後も柱となる重要な活動です。

★コットンキャップの販売



3年間で9回、イベント等で手作りの販売をしました。商品の工夫や陳列方法などノウハウを蓄積し、8回目から初の利益が出ました。

★プロボノチャレンジ KANAGAWA



広報の方法についての提案を参考にして、コロナ収束後に訪問を開始できるように、高校3年生（卒業前のいのちの授業）向けと企業向けのチラシ（案）を作成しました。

★医療講演会&シンポジウム



2018年9月16日、かながわ県民センターにて開催。医療講演会は東海大学医学部教授矢部正広先生、シンポジウムは骨髄提供経験者でもある俳優の木下ほうか氏と移植経験者の池谷有紗氏、大谷貴子氏の司会で笑いあり涙ありの会になりました。200人ほどの来場者があり、アンケートも好評でした。

★Zoomの活用



コロナ禍で会議を全てZoomに切り替えました。慣れてみれば当会にピッタリの方法で、今ではおしゃべり会（Zoom飲み）で親睦を深めています。また、会員向けにZoomでZoomの講習会を開催しました。

★ホームページをリニューアル



プロバイダーに講師を依頼してHPの講習会を開催しました。見やすく使いやすいHPにすることができました。

★クリスマスコンサートでPR



2019年12月22日、横浜そごう前でクリスマスコンサートを開催し骨髄バンクのPRをしました。また、2020年はコロナ禍で中止となりました。

★広報用の動画を作成

HPで12作品を公開中(5/29現在)



会員向けに広報用動画の講習会を開催し、会員がそれぞれテーマを絞った作品を作成してHPへアップしました。今後も新作をHPや各種イベントなどで紹介します。

★成長支援・17の視点



NPO法人藤沢市民活動推進センターのアンケートに答えて、会の現状の分析を受けました。会のスローガンを作ることで、会員の共通した認識を得ることができました。

私たちは虹いろ笑顔です。

日赤との友好関係を大切にしています ～献血バスでの取り組み～



「献血のご協力をお願いします。本日、あわせて骨髄バンクのドナー登録会を行っています。」献血バスの近くのスピーカーから流れるこの言葉を聞くと胸がじわっと熱くなる。ドナー登録会になくはないのが、献血バスの日赤職員さんのご理解とご協力である。

登録会当日は日赤さんがテントの設営から机や椅子の積み降ろしもしてくださる。献血にいらした方に献血受付と問診・採血の間に、ドナー登録の説明が割り込むので、流れを変えてしまう負担をかけている。私たちにできることは、献血の呼びかけを積極的にお手伝いすることと、できる限り業務の邪魔にならないよう行動すること。骨髄バンクのタスキをかけながら献血のプラカードを掲げ、説明時には献血の順番が狂わないよう「骨髄バンクドナー登録説明中」のカードを椅子に置き、時間をかけず的確にドナー登録の説明を行う。終了時にはテントの

片付けなどを積極的に行うということをし、常日頃から説明員同志で心がけている。献血バスの受付では、条件に当てはまる方に「ドナー登録説明を聞いてみませんか」とのお勧めまでして下さる。

骨髄移植と輸血、骨髄バンクと献血バス、切っても切り離せない大切な関係です。何事も基本は人と人とのコミュニケーション。日赤さんと阿吽の呼吸で活動できる空気感を大切に、今日も献血とドナー登録の呼びかけに笑顔で行ってきます。（小石川）



新作の動画をご覧ください

テーマ：お母さんが元気になったからこそ ～今の普通の生活に感謝～

当会
HP へ



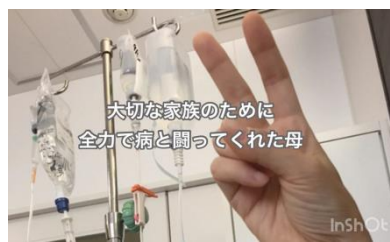
動画作成は骨髄移植（臍帯血移植）を受けた会員の3人のお子さんたちに依頼しました。テーマの他にお願いしたことは、当時は何歳でしたか？そして今は何年後ですか？・・・出来上がった作品はストレートにころへ響きます。ドナーさんが助けてくれたのは、患者ご本人はもちろん、お子さんたちの未来も含めてなのです。

（写真下は母から娘へのメッセージです）

作品1：ほしपीさん

作品2：ちばさん

作品3：まりあさん



見られないはずだった未来を一緒に見られていて、笑顔や笑い声が私のエネルギーになっています。あなた達のこれからをいつでも応援しています。母より。

ちばがいてくれたからママは頑張れた。
高い壁だったけど、一緒に乗り越えてくれてありがとう。「人生は美しい」と笑顔で歌おう♪

「まりあの踊る理由」は「私の生きる理由」。ドナーさんにいただいた命で「小石川茉莉愛」を応援し、ファンであり続けます。「誰かの明日の活力に」貴女のパフォーマンスは世界中を元気にしてくれる。・・・ありがとう



BMT 神奈川は人材の宝庫！会の財産でもあり、いつも誰かのために頑張ってくれている会員ひとりひとりにスポットを当て、その貴重な闘病経験を含めた生きる姿や想いを、広く内外にご紹介する企画としてスタートした【2度の骨髄移植を経験した原子が会員に聞く】シリーズの第3弾です。

自分の人生の中で「自分の知らない2か月間が存在すること」を想像できる人がいるだろうか。寝ている間に移植の全てが終わっていたという。そう聞くと移植経験者なら「楽で良かったね」と思うかもしれない。しかしお話を聞くうちに、本当の意味での闘病は目を覚ました瞬間に始まったのだと知りました。話す様子に悲壮感はなく、壮絶な経験を微塵も感じさせずにあっけらかんと笑う。ご自身がたしなむという太極拳のようにゆっくりと、そしていつも自然体でいながら、興味を持ったことは即実行する。今回はそんなさとこさんにお話を伺いました。

ありのままでしなやかに

◆「病気がわかった時のことを教えてください」

「皮膚の悪性リンパ腫という大変希少ながんです。移植しないとあと1年、治療法は移植しかありません」と言われました。年単位で症状が進んでいく病気とのこと。

移植どころか、初めて耳にする病名の知識も全くなかったもので、ショックを受けたというより、単純に「ああ、そうなんだ」という気持ちでしたね。

それと同時に、10年以上も皮膚湿疹の症状に悩まされ、いろんな病院を受診しても原因と病名が不明のまま過ごしていたので、病名がわかっただけでも良かったという思いのほうが強かったです。

セカンドオピニオンの案内もありましたが、わかりやすくははっきりと話してくださる女医さんを信頼し、すべてお任せしました。

◆「入院前」

入院までの半年間、自宅の片づけや仕事の引継ぎなどで、体のことを考える余裕もなく日々が過ぎました。

もしかしたらこれが最後になるかもしれないの思いから、旅行も楽しみました。

ドナー候補者が5名見つかったとの連絡をいただいた時は、何の知識もなくピンときませんでした。周囲の様子から何となく凄いことなんだろうな、くらいには感じていました。

「今まで懸賞の類が何も当たらなかったのは、ここにすべての運を注ぎ込むためだったんだよ！」と友達に励まされ、妙に納得。

ボランティア活動を通して少しは知識が増えた今、あの時何も知らなかったことをドナーさんに申し訳なく

思うと共に、その存在の凄さとありがたさを改めて実感しています

◆「入院中の様子」

移植の10日前に無菌室に入室し、移植へ向けての前処置をスタートして2日目くらいに、少し呼吸が苦しくなったところまで記憶にあるのですが、次に目を覚ましたのは2か月後の集中治療室でした。



その時には移植の全てが終わっていて、「ここはどこ？私は誰？」状態でした。自分の身に何が起きたのわからず、「誰か教えてー！」という感じ。2か月間も眠り続けていたことに自分自身も驚きましたが、後から考えると、家族はどれほど心配しただろうと思いますね。

目が覚めてしばらくは、体や指どころか動かせるのは目だけという状態だったので、ナースコールも押せず気管切開しているので話すこともできない。ただひたすら、痰の吸引機と点滴の機械音の中でじっとしていることしかできませんでした。

そんな中で考えていたのは、初体験だからと楽しみにしていた無菌室は、何も楽しめなくて残念だったなあとか、移植前に友達が差し入れしてくれたマカロンはどうなっただろう、私食べていない～！とか、今考えたら

笑ってしまうようなことばかりですね。

その頃には、一度抜けたという髪が少しずつ生え始めていました。

◆「気持ちを保っていられた原動力」

ただひたすら「家に帰りたい！」一心でしたね。

本格的な入院前に数日間、4人部屋に入院したことがありました。唯一友達になった先輩患者さんが先に退院し、「やっぱり家はいいよー♪」と連絡してくれるのですが、その時はまだその感覚がわからずにいました。そして、いざ自分がこうなってみて初めて、その時の話が実感として理解できるようになったのです。

目が覚めてからは集中治療室ではなく、別の個室に移動し、合計5か月間ほど寝たきりの状態が続きました。

◆「回復へのリハビリ」

その間、相変わらず自分の力では何もできないため、腕を持ち上げてもらったりリハビリから始めてもらいました。本当に辛く長い道のりでしたが、回復へ向かうという希望と、理学療法士さんの忍耐強く細やかな指導のおかげで、ゆっくりゆっくり体のあちこちが動かせるようになっていきました。

◆「病院の引っ越しと患者会に出席」

病院の引っ越しという貴重な経験もしました。完成した新病院棟は道路を挟んだ向かい側ですが、カートのまま車に乗せてもらう大移動でした。送り出す側と迎え入れる側の連携が実に鮮やかで、忙しい合間を縫って患者のスムーズな引っ越しの練習に、どれほどの時間を費やしたのだろうと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

この時から、移植後初めて4人部屋になったのですが、自分からは動けず話もできないため、移植をした患者仲間の友達はなかなかできません。

そんな時、初の病院主催の患者会が開かれるという情報が飛び込んできました。車椅子に座るのがやっとの状態でしたが、反対されてもめげず何度もお願いして、家族の付き添いを条件に参加の許可がおりた時は本当に嬉しかったです。

◆「その後の回復は」

実はそこからがまた本当に大変でした。退院後に肺炎で4度の入院をしたのですが、そのうちの1回は薬の影響で全身の皮膚が剥けて、入院期間が3か月に及びました。さすがにこの時は落ち込みましたが、ただ家に帰りたいということ以外にもうひとつ、何としても退院したい理由があったので、頑張れたのだと思います。

◆「娘さんの出産に2度立ち会えたそうですね」

はい、気持ちを奮い立たせてくれたもうひとつの大きな原動力がそれでした。



母親として娘の出産後の手伝いを！と、最初はそれだけのつもりでしたが、立ち会いができると知り、ふたりの孫の出産に立ち会わせてもらいました。

自分の出産の時は無我夢中で終わってしまったし、立ち会いだけなら疲れないだろうとの考えだったのですが、いやいやとんでもない。騒ぐ娘と一緒に全身に力が入ってしまい、ものすごく疲れました。(笑)

嬉しいのはもちろんですが、とても不思議な感覚でしたね。最近まで境界線をさまよっていた自分が、今度は命の誕生の場にいるのですから。病気を経験したこともそうでしたが、この経験をさせてもらってから、さらに人生観が変わった気がします。

◆「お友達との距離に変化はありましたか」

病気の前と後で特に変わったことはありません。幸い私は家族や仕事以外にも、大切な人たちに病気のことを伝えて入院できたので、その意味での気持ちの負担はなかったと思います。悪気はなくても、労わりから気を遣われすぎるとこちらもやりにくいけど、そこは長年の呼吸でお互い理解できていると思うので気が楽です。

◆「いま闘病中の方へ」

治療中とはとにかく自分のことを一番に考えてほしいと思います。入院中も、毎日家族のことを心配する友達を目の当たりにして、いつもそう感じていました。私自身も家族がいるので気持ちは十分に理解できますが、自分が元気になることが、結局は家族の幸せにも繋がると信じ、まずは自分自身のことを何より優先してほしいと思います。

◆「BMT 神奈川との出会い」

どこで聞いたのか忘れましたが、桜木町で患者サロンを開催することを知りました。当時は車での通院以外にひとりで出かけたことがなく、10センチの段差を越えるのも難しい状態だったので、電車とバスを乗り継いで会場までたどり着けるか不安だらけでした。それでも、移植経験者だという大谷貴子さんのお話が聞きたい、何かの情報を得たいとの思いから、頭の中でシュミレーションを重ねていざ決行！

駅から会場への途中、黄色のタスキをかけて案内板を持つ女性を目にした時は、まさに暗闇の中の光！でした。会場まで付き添ってくれたあの日のことは今でも覚えています。

そしてその女性が、広報紙「虹」の中島編集長だと後から知りました。今回のインタビューでも、その時の話になり、懐かしさで場が盛り上がりました。

その後も何度か患者サロンに参加しているうちに、「ドナー登録説明員」というボランティアがあることを聞き、移植のこと、骨髄バンクのことを知りたいとの思いで入会しました。知れば知るほど BMT 神奈川の凄さを感じています。



インタビュー後記



「才能豊かなメンバーの中で何もできずに心苦しかったのですが、少しでもお役に立てたらと、控えめにインタビューに応じてくれた、さとこさん。ドナー登録会の中心メンバーとして、とても頼りにされていることをご自身はご存じだろうか。さかのぼること2年前の5月、ドナー登録説明員養成研修に参加した私を、終了後の食事に誘ってくれたのがさとこさんでした。初対面なのにまるで昨日までも友達だったかのようにお声をかけてくれて、ステロイド服用中でまんまるほっぺの私に「みんなそうなる、今だけ今だけ！」と、その場の全員が普通に受け止めてくれたその席があったおかげで、会にもすぐに溶け込みました。とてつもなく大変だったであろう入院生活をさらさらと話す。やわらかな雰囲気からは想像しにくい、いろんなことに対する興味のかたまりのような人でした。やる気を前面に押し出すことをせず、「周囲の風景を眺めながら楽しく走っていたら、いつの間にか完走しちゃった〜♪」という雰囲気で表現したらいいだろうか。風に逆らわない花が一番強いのかもしれないと、感じさせられたインタビューでした。ありがとうございました。

(原子)

◆「ドナーさんへの3回目のお手紙」

ドナーさんとはお手紙の交換を2度しました。ご存じの方も多いと思いますが、ドナーさんと私たち移植患者は身分などを明かさずに、骨髄バンクを通じて、2度までお手紙のやり取りができます。私もお礼の手紙を書きましたが、お礼なんて軽く言えないほどの想いです。命そのものをいただいたのですから。

お手紙には毎回、見ず知らずの私を気遣う温かな言葉が並び、お役に立てたことの嬉しさが綴られていました。同封されていた風景葉書などは、額に入れて大切に飾っています。

そして、ドナーさんに届くことはないけれど、元気になったことを3回目のお手紙にしました。

『まさかこのような第2の人生が待っているとは想像もしていませんでした。以前の私はボランティアとは全く縁のない生活でした。今は、誰かの大切な命のために骨髄バンクのドナー登録説明員として活動しています。以前いただいた温かいお手紙と美しい景色の写真は宝物です。感謝を胸に、いつか写真の場所を廻ってみたい。そして、生まれ変わった自分を大切にできる人でありたいと思っています。ドナーさんの健康を心よりお祈りしています。』

	開催場所(開催日)	登録/説明
1月	ミスターマックス湘南藤沢 (1/7, 23)	10/14
	横須賀中央駅前 (1/10)	7/9
	小田原ダイナシティイースト (1/11)	3/6
	平塚駅北口 (1/12)	5/10
	横浜市庁舎 (1/13, 14)	23/27
	相模原市役所前 (1/13)	10/12
	綾瀬市役所 (1/14)	6/8
	座間市役所 (1/20)	12/16
	JAさがみ茅ヶ崎支店 (1/30)	14/16
2月	小田原ダイナシティイースト (2/7, 20)	16/22
	三興製鋼株式会社 (2/8, 12)	4/6
	相模原市役所前 (2/9)	9/12
	川崎市中区役所 (2/10)	8/11
	横須賀中央駅前(2/11)	6/12
	JAさがみ茅ヶ崎支店 (2/13, 23)	27/34
	ノジマモール横須賀店前(2/14, 28)	17/21
	防衛大学校 (2/17, 18, 19)	33/39
	Meiji Seika ファルマ小田原 (2/19)	8/10
3月	イトーヨーカ堂立場店前(2/21)	15/24
	川崎市役所第三庁舎(3/1, 2)	10/22
	戸塚区役所 (3/9)	5/7
	京急久里浜駅前ウィング (3/10)	6/8
	小田原ダイナシティイースト (3/14, 21)	14/21
	ノジマモール横須賀店前 (3/14, 27)	13/19
	平塚市教育会館 (3/16)	7/15
	相模原市役所前(3/19, 31)	18/20
	本厚木駅北口 (3/20)	6/10
4月	横須賀中央駅前 (3/20)	11/18
	海老名市役所 (3/25)	5/6
	海老名中央公園 (4/2)	14/15
	ニッパツ三ツ沢球技場 (4/3)	5/5
	小田原ダイナシティイースト (4/3, 29)	18/20
	ノジマモール横須賀店前 (4/4, 29)	16/17
	横浜市庁舎 (4/6, 7)	15/16
	相模原市役所前 (4/7)	5/6
	南足柄市役所 (4/13)	3/3
5月	東京農業大学厚木キャンパス (4/19)	12/13
	北里大学相模原キャンパス (4/20)	19/25
	麻布大学 (4/21)	29/31
	海老名中央公園 (4/26)	8/9
	JAさがみ茅ヶ崎支店 (4/26)	17/23
	京急横須賀中央駅前 (4/30)	9/12
	ノジマモール横須賀店前 (5/1)	9/9
	京急横須賀中央駅前 (5/2)	10/19
	海老名中央公園 (5/3)	18/23
5月	平塚駅北口 (5/4)	11/15
	小田原ダイナシティイースト (5/5, 9, 23)	38/41
	大磯町役場 (5/12)	4/7
	座間市役所 (5/13)	8/12
	綾瀬市役所 (5/14)	6/6
	相模大野駅コリドー通り(5/15)	14/14
	横須賀中央リドレ前 (5/15)	15/16
	本厚木駅北口 (5/16)	12/13
	東京工芸大学 (5/17)	11/13
5月	神奈川県庁舎 (5/19)	10/11
	ミスターマックス湘南藤沢 (5/22)	17/21

2021年度かわさき市民公益活動助成金 が決定しました

医療用ケア帽子「コットンキャップ」を必要な方へお届けできるようなシステムを作ります。まずはモニタリングで100名の方へ配布する予定です。興味のある方は一緒に活動しましょう。星野まで。

◆献血ルーム登録数集計

(R2年12月～R3年5月18日)

※登録会開催日が不定期になりました

	かわさき ルフロ (6回)	横浜駅東口 クロスポート (6回)	横浜 Leaf (6回)
合計	55/66	53/61	53/65
累計(27/5～)	640/793	716/932	349/426

(登録数/説明数)

◆日本骨髄バンクの現況 (R3年4月末現在)

骨髄バンクデータ集より	全国	神奈川県
ドナー登録者数	532,030	25,685
患者登録者数	1,749※	67
移植実施数	25,434※	1,314

※海外を含む

◆ご寄付 & 募金のご報告◆

みなさまありがとうございました

日比 初美 様	3,000 円
八谷 時子 様	5,000 円
正木 みどり 様	12,000 円
横浜泉ライオンズクラブ 様	10,000 円
岡本 恭子様	10,000 円
伊勢原ライオンズクラブ 様 (支援金)	30,000 円

私たちの活動は善意のご寄付で支えられています。
ご協力をお願いいたします。

++ 寄付の振込先 ++

◎ ゆうちょ銀行から
郵便振替口座：00230-8-55751
加入者：神奈川県骨髄移植を考える会

◎ 銀行からゆうちょ銀行へ振り込む場合
支店：〇二九(ゼロニキュウ)支店
当座 0055751
口座名：神奈川県骨髄移植を考える会

本紙に掲載されている個人名や金額につきましては
ご本人の承諾をいただいております。

ビル建物総合管理・施設警備 有限会社 白朝サービス社

神奈川県横須賀市汐入町 4-28

TEL : 046-825-7180 FAX : 046-825-7163

++ はみ出し編集後記に変えて ++

◇患者サロン「虹いろピクニック♪」を毎月第2土曜日 20:00よりZoomで開催しています。患者経験者やご家族などで集まり気軽にお話をしませんか？

◇招待状は Line のグループ Nowでお送りしています。興味のある方は会の代表アドレスへご連絡ください。原子